

新産業廃棄物最終処分場整備事業

環境影響評価の概要

公益財団法人 宮城県環境事業公社

【目次】

1. 環境影響評価とは
2. 環境影響評価の手続き
3. 環境影響評価の項目
4. 環境影響評価の工程
5. 環境調査の工程
6. 環境調査の内容

1. 環境影響評価とは

①環境影響評価制度

●道路やダム等のインフラ整備や工場や発電所等の開発事業が周辺環境に与える影響について事業者が事前に調査・予測・評価を実施し、施設の許可や工事計画に反映させることで事業が環境へ及ぼす影響を最小化していくもの。

②宮城県における環境影響評価(仙台市域を除く)

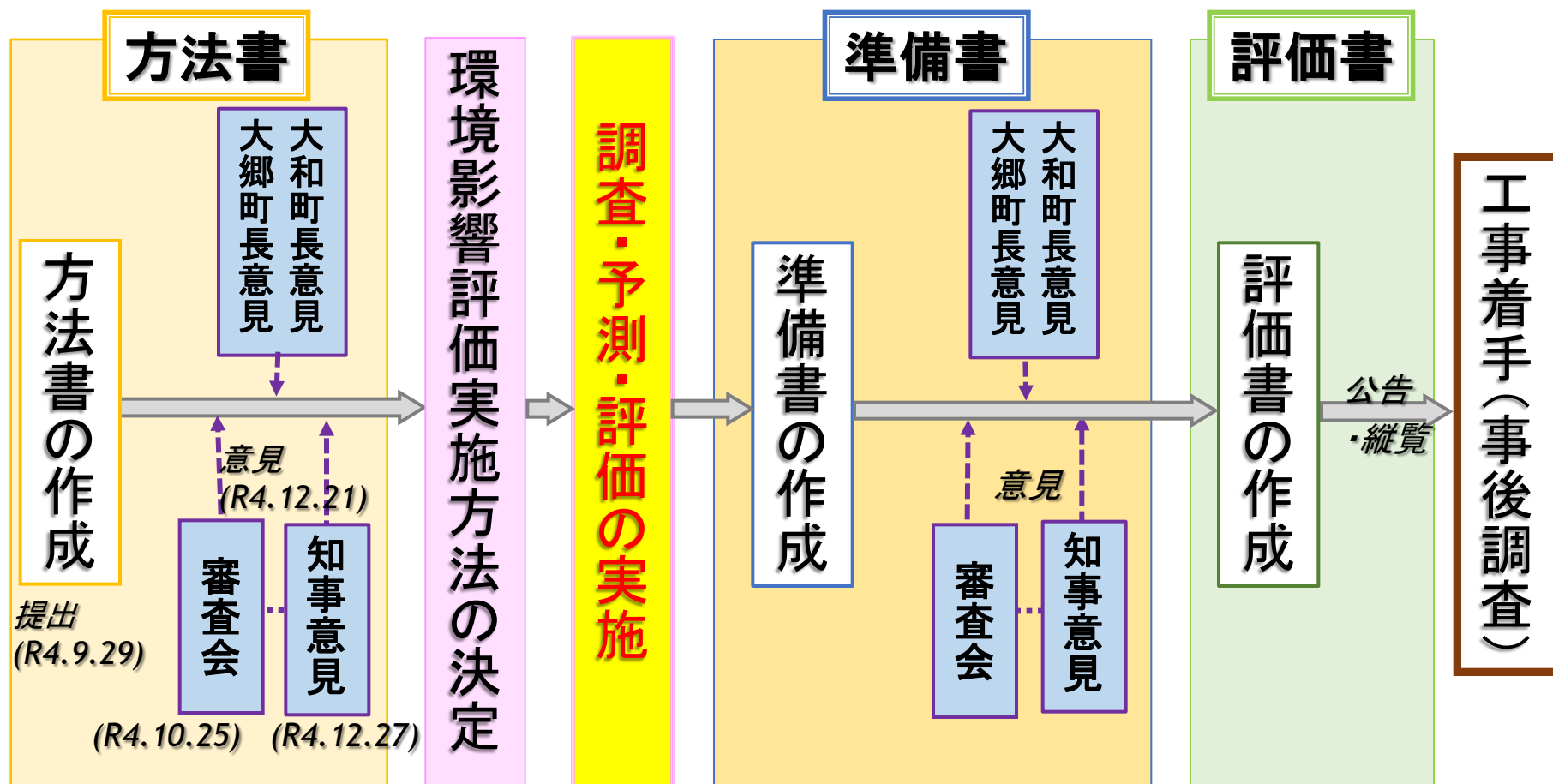
●対象となる事業

- ・宮城県環境影響評価条例(平成10年3月26日 宮城県条例第9号)で定められた大規模な開発事業(道路, ダム, 廃棄物最終処分場等の11種類の事業)。
- ・本事業は、対象事業のうち第2種事業に該当します。

※第2種事業とは、必要に応じて環境影響評価を実施する事業です。

2. 環境影響評価の手続き

現在



(宮城県条例 第2種事業)

3. 環境影響評価の項目

●新産業廃棄物最終処分場整備事業方法書に記載の環境影響評価項目は以下のとおりです。

表 条例に基づく最終処分場の環境影響評価項目※1

環境要素		建設時	供用時	
		最終処分場の設置の工事	最終処分場の存在	廃棄物の埋立て
大気環境	大気質	○		○
	騒音・振動	○		○
	悪臭			○
水環境	土砂等による水の濁り	○		○
	水の汚れ		○	○
	有害物質	○		○
	地下水の水位・地下水の流れ・流向及び流速	○	○	
土壌環境	重要な地形及び地質	○	○	○
	地盤の安定性		○	○
	有害物質	○		○
生物	動物・植物・生態系	○	○	○
景観	景観・人と自然との触れ合いの活動の場	○	○	○
環境負荷	建設工事に伴う副産物	○		
	温室効果ガス等	○		○
放射線物質	放射線量※2	○		○

※1：「宮城県環境影響評価技術指針 別表第十 参考項目 最終処分場設置事業」に基づき作成

※2：原子力発電所の事故に伴う放射性物質汚染廃棄物の受入は行わないが、※1の指針に掲載があること、計画地のバックグラウンドデータの取得を理由として評価項目とする。

4. 環境影響評価の工程

●環境影響評価の工程は以下のとおりです。

(R5.2.7現在)

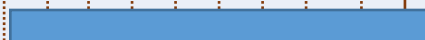
項 目	令和5年												令和6年												令和7年			
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
現地踏査・準備																												
方法書に基づく環境調査																												
予測・評価等																												
環境影響評価準備書の作成																												
環境影響評価準備書の審査																												
環境影響評価書の作成																												
環境影響評価の公告・縦覧																												
許認可手続き等																												
事後調査																												

※工期は今後の状況により変動することがあります。

5. 環境調査の工程

●環境調査の工程は以下のとおりです。

(R5.2現在)

項 目	令和5年												令和6年			備考		
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3	
気象の状況																対象事業実施区域内 1箇所連続1年間		
大気質																粉じん等：対象事業実施区域内2箇所4回 NO2,NOX,SPM：対象事業実施区域内6箇所4回 春・夏・秋・冬季		
騒音・振動 （交通量）																騒音の状況・振動の状況：対象事業実施区域内6箇所1回(24hr) 秋季 地表面の状況：対象事業実施区域内及び周辺 1回 秋季 地盤の状況（地盤卓越振動数）：運搬経路沿道4箇所 1回 秋季 自動車交通量：4箇所 1回(24hr) 秋季		
悪臭（臭気指数）																対象事業実施区域内2箇所（風上、風下）, 4回 春夏秋冬		
水質																浮遊物質量の状況、流況、有害物質濃度の状況：6箇所 降雨時 1回 浮遊物質の沈降の状況：対象事業実施区域内2箇所 任意の時期に1回		
土壌汚染																対象事業実施区域内 2箇所 任意の時期に1回		
動物																対象事業実施区域の周囲約250mの範囲 項目毎に1年の中で適宜実施		
植物																対象事業実施区域の周囲約250mの範囲 植物相の状況：4回 春・初夏・夏・秋季 植生の状況：1回 夏季		
生態系																項目毎に1年の中で適宜実施		
景観															落葉期、展葉期の2回 主要な眺望点の9箇所			
人と自然との触れ合い の活動の場																6箇所 4回 春・夏・秋・冬		
放射線の量																項目毎に1年の中で適宜実施		

※工期は今後の状況により変動することがあります。

6. 環境調査の内容

(1)大気質

1)調査項目

【気象】

風向・風速・日射量・放射線収支量

【大気質】

粉じん等、二酸化窒素(NO_2)窒素酸化物(NO_x)、
浮遊粒子状物質(SPM)

2)調査時期

【気象】 :1年間

【大気質】:4回 春・夏・秋・冬季(各1週間)

但し、粉じんは各1ヵ月間

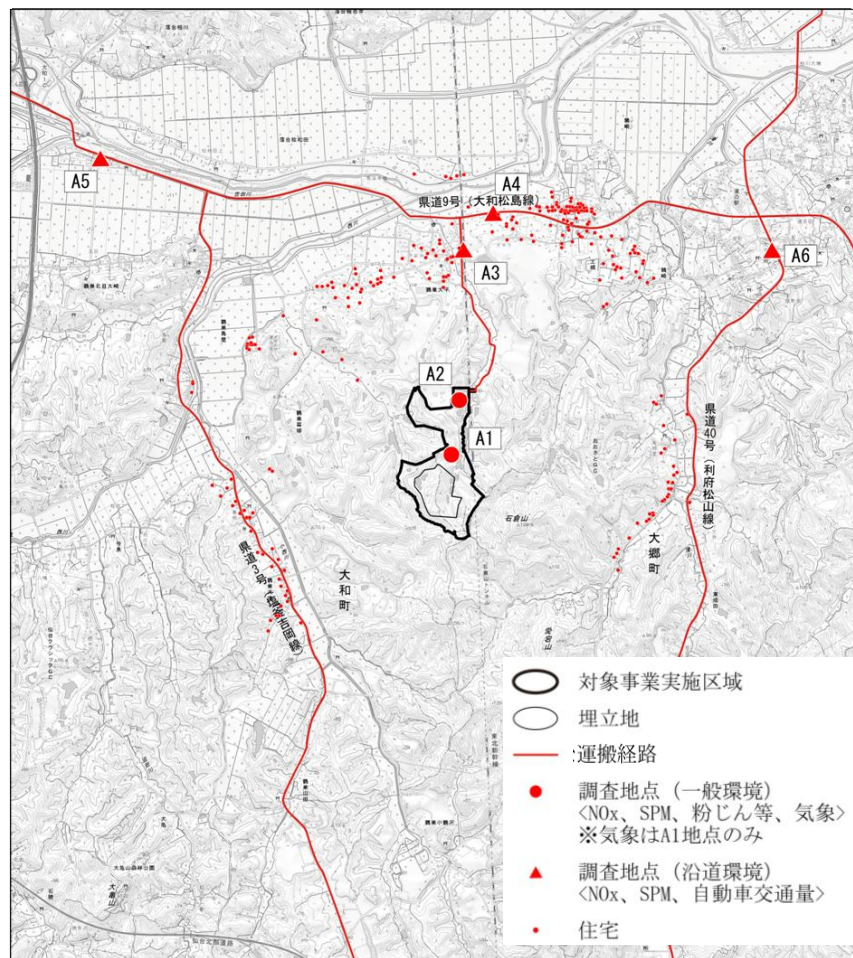
3)調査箇所

【気象】 :1箇所(A1)

【大気質】:6箇所(A1～A6)



環境影響調査実施例



大気質調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(2)騒音・振動・(交通量)

1)調査項目

【騒音】

騒音の状況、地表面の状況、交通量

【振動】

振動の状況、地盤の状況(地盤卓越振動数)

2)調査時期

平日の24時間 1回

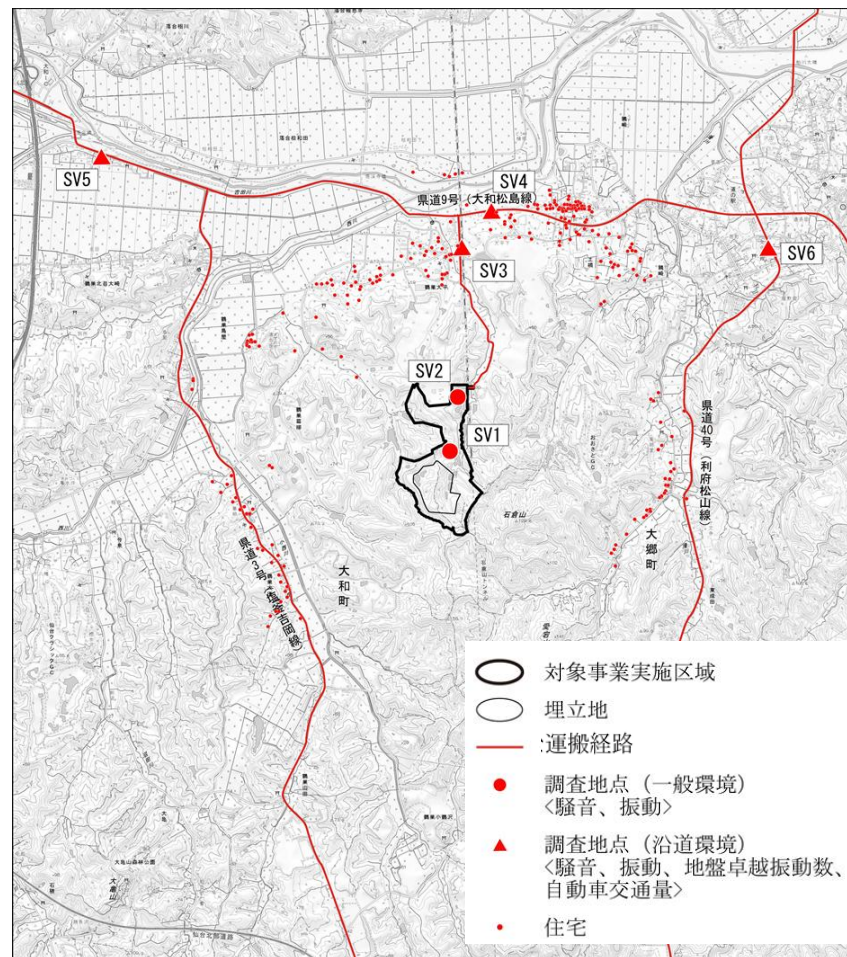
3)調査箇所

【騒音・振動】:6箇所

【交通量・地盤卓越振動数】:4箇所



環境影響調査実施例



騒音・振動調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(3)悪臭

1)調査項目

悪臭(臭気指数)

2)調査時期

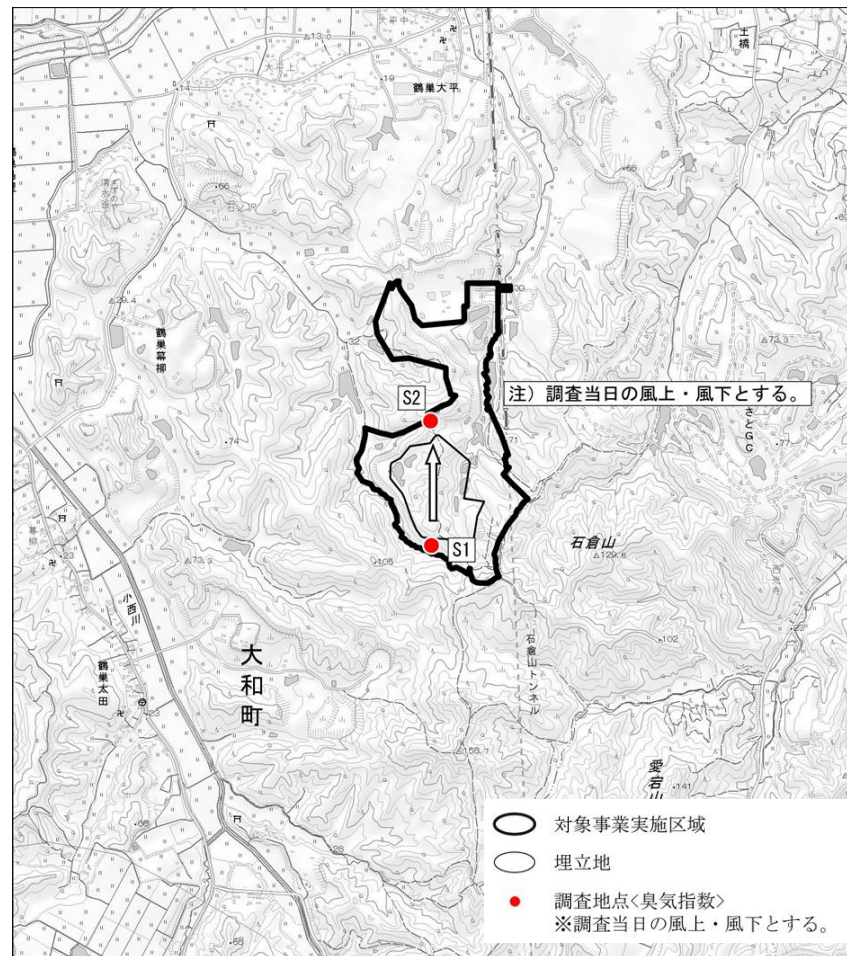
4回 春・夏・秋・冬

3)調査箇所

2箇所(風上,風下)



環境影響調査実施例



悪臭調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(4)水質

1)調査項目

浮遊物質の状況、浮遊物質の沈降の状況、流況、有害物質濃度の状況

2)調査時期

浮遊物質の状況、流況、有害物質濃度の状況:降雨時に1回

浮遊物質の沈降の状況:任意の時期に1回

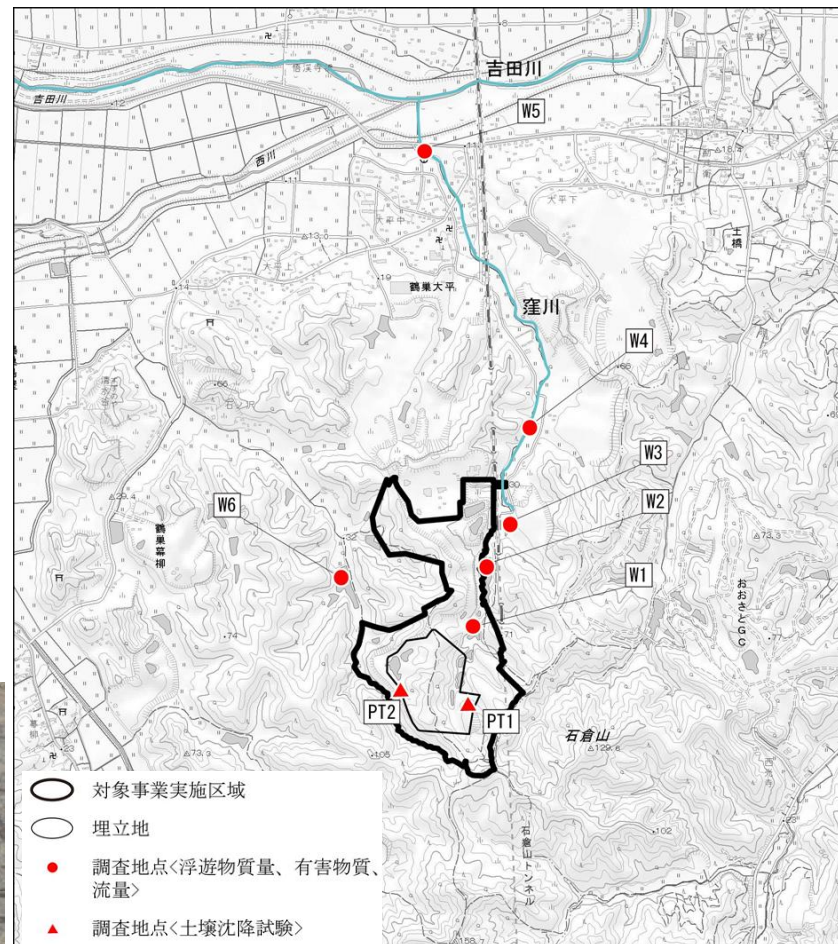
3)調査箇所

浮遊物質の状況、流況、有害物質濃度の状況:6箇所

浮遊物質の沈降の状況:2箇所



環境影響調査実施例



水質調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(5)地下水の水質、水位及び流れ

1)調査項目

地下水(地下水位、流向)の状況、
地形・地質の状況、地下水の利用の状況

2)調査時期

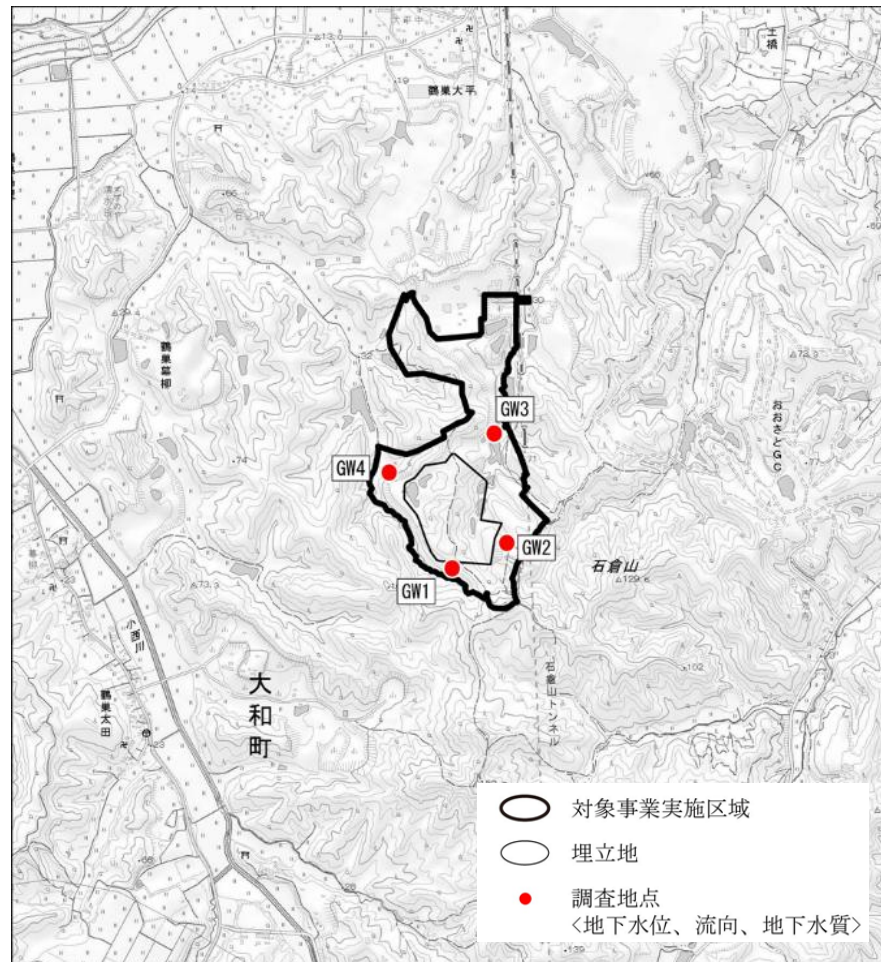
地下水位の状況:連続する1年間
地下水流向の状況:4回 春・夏・秋・冬季
地形・地質の状況:任意の時期に1回
地下水の利用の状況:任意の時期に1回

3)調査箇所

地下水(地下水位、流向)の状況、
地形・地質の状況:4箇所
地下水の利用の状況:地下水の水位の影
響を受けるおそれがあると考えられる対象
事業実施区域



環境影響調査実施例



地下水位調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(6)地盤

1)調査項目

地形、地質及び地盤の状況

2)調査時期

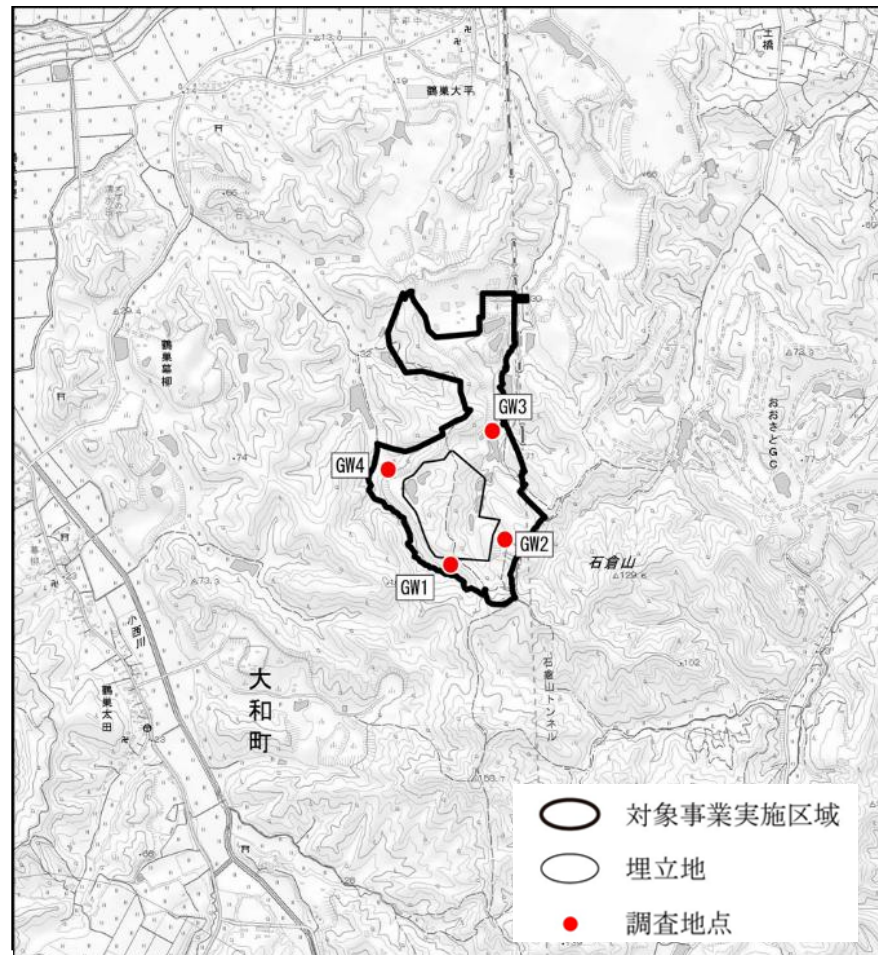
任意の時期に1回

3)調査箇所

4箇所



環境影響評価実施例



地質調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(7) 土壌汚染

1) 調査項目

土壌汚染の状況

2) 調査時期

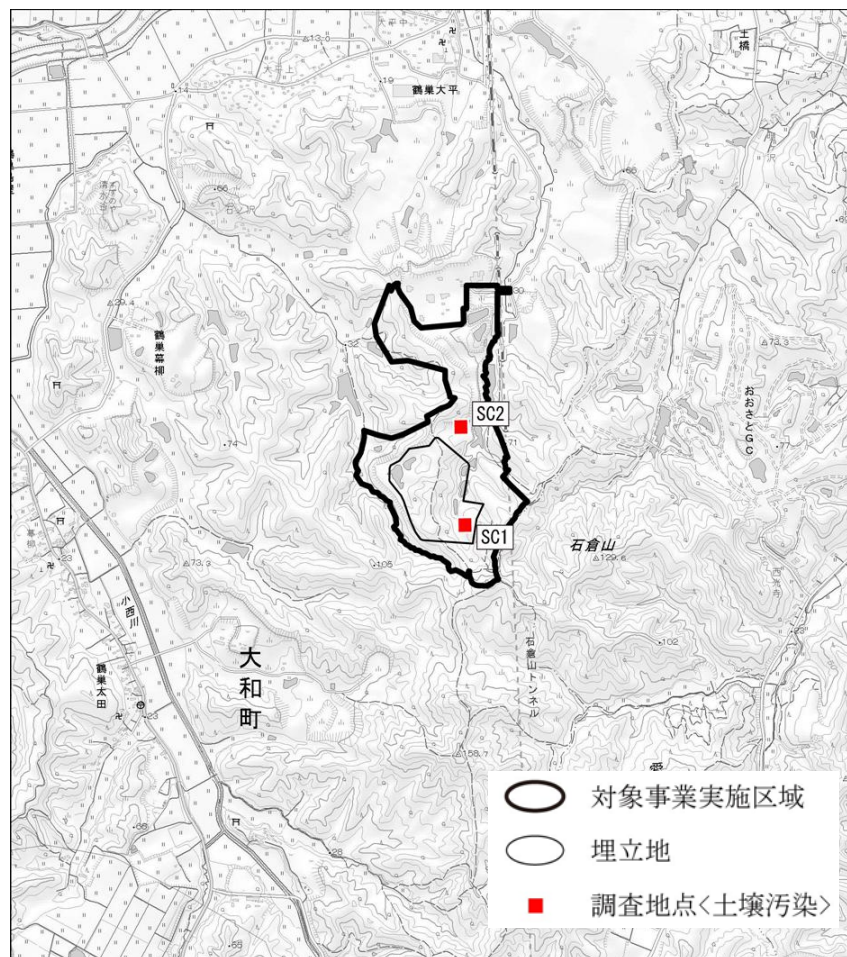
任意の時期に1回

3) 調査箇所

2箇所



環境影響評価実施例



土壌汚染調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(8)-1 動物(陸生動物(鳥類を除く))

1) 調査項目

動物相の状況

重要な動物種及び注目すべき生息地の分布、生育の状況及び生息環境の状況

2) 調査時期

哺乳類: 4回 春・夏・秋・冬

(コウモリ類: 3回 春・夏・秋季)

爬虫類・両生類: 4回 早春・春・夏・秋季

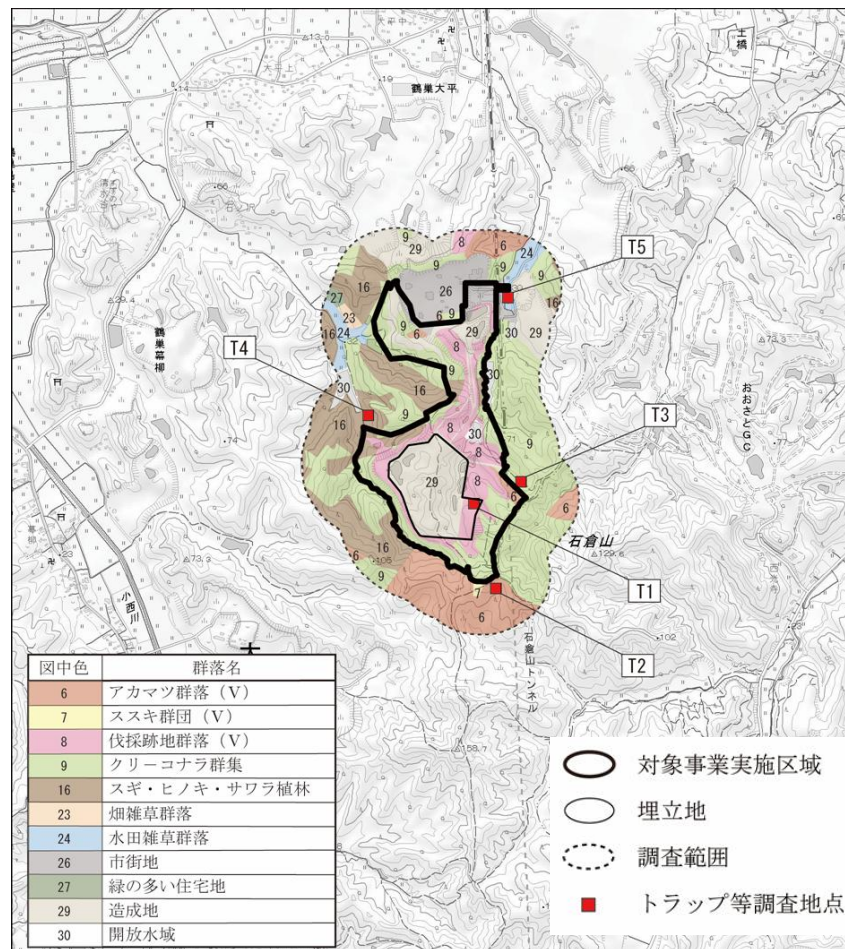
昆虫類: 5回 早春・春・初夏・夏・秋季

3) 調査箇所

対象事業実施区域及びその周囲約250mの範囲



環境影響調査実施例



動物調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(8)-2動物(鳥類)

1)調査項目

動物相の状況

重要な動物種及び注目すべき生息地の分布、生育の状況及び生息環境の状況

2)調査時期

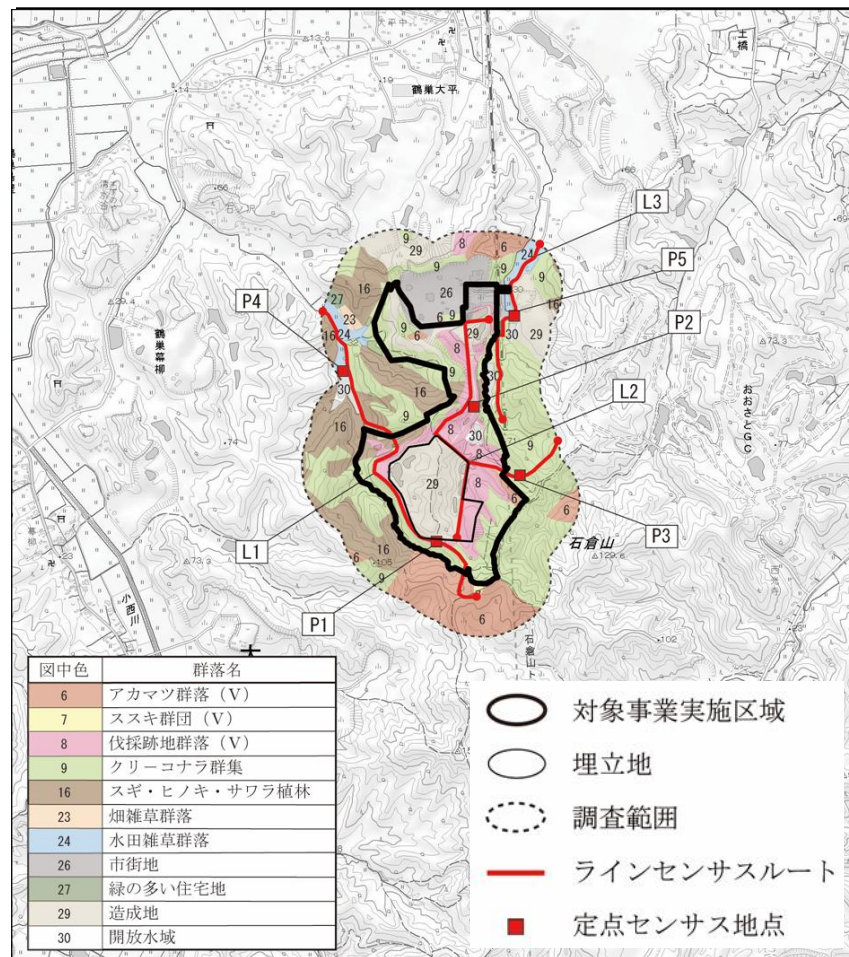
4回 春・夏・秋・冬季

3)調査箇所

対象事業実施区域及びその周囲約250mの範囲



環境影響調査実施例



鳥類調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(8)-3動物(希少猛禽類)

1) 調査項目

行動圏調査

営巣場所調査

2) 調査時期

1月～8月に3日/月

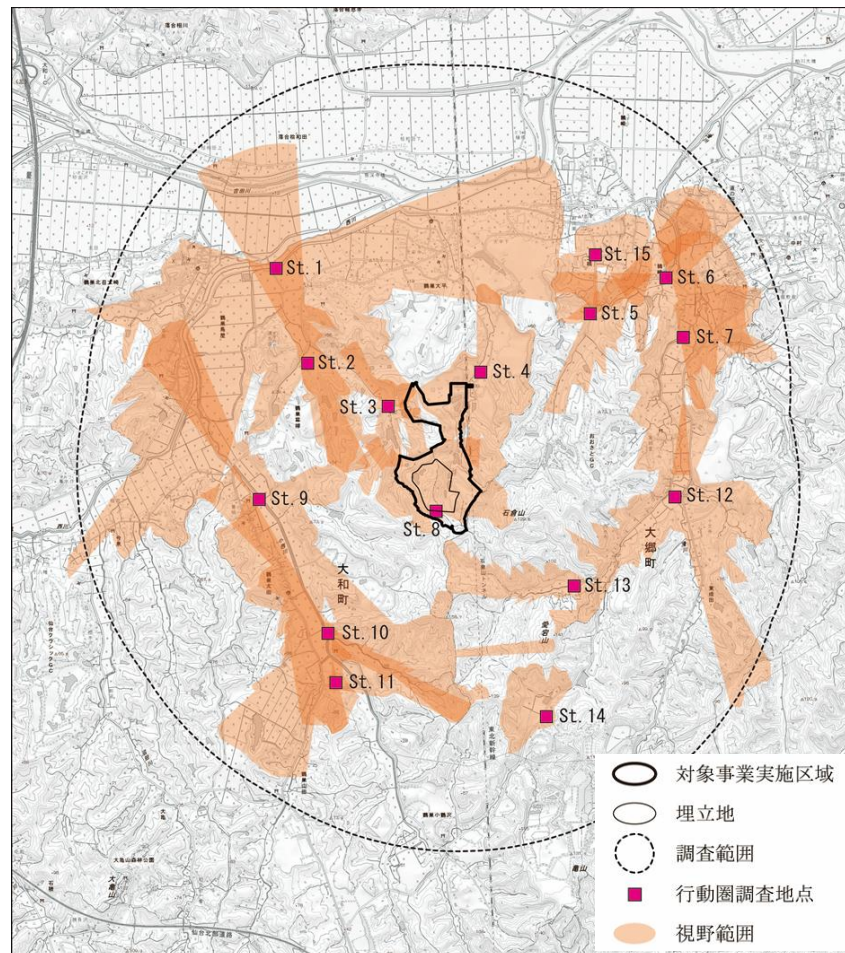
3) 調査箇所

対象事業実施区域及びその周囲約3kmの範囲

同時に4地点で調査



環境影響調査実施例



希少猛禽類調査地点位置図

(8)-4動物(水生生物)

1)調査項目

動物相の状況

重要な動物種及び注目すべき生息地の分布、生育の状況及び生息環境の状況

2)調査時期

魚類: 3回 春・夏・秋季

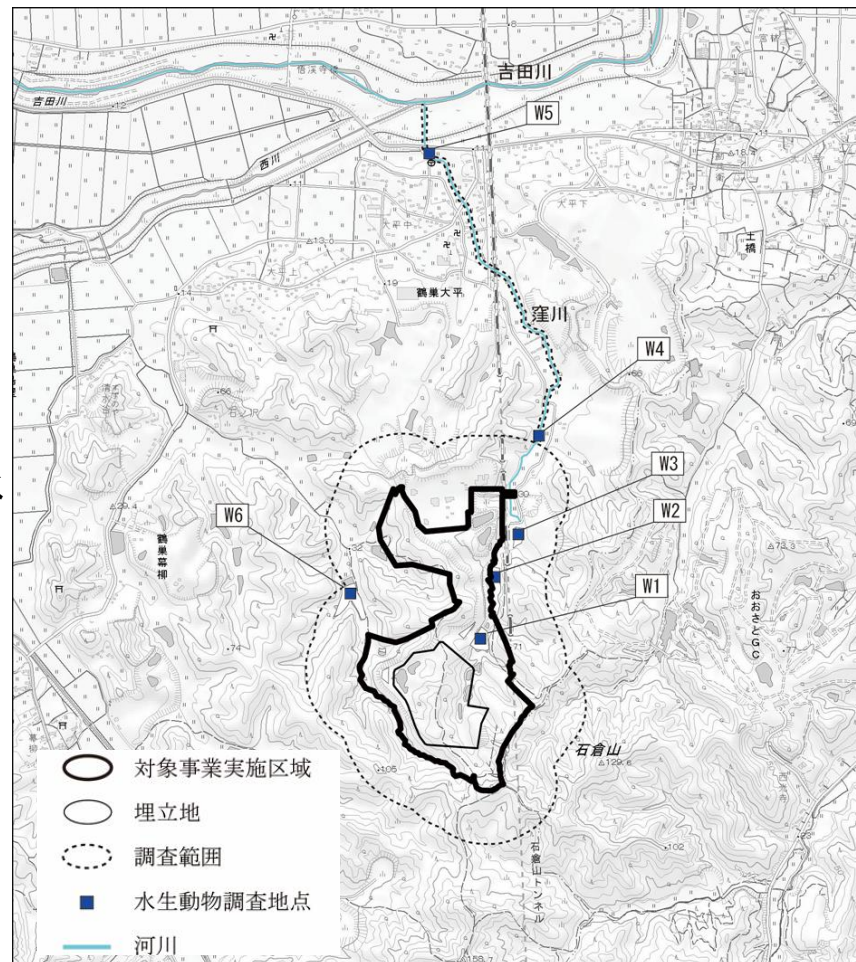
底生動物: 3回 春・夏・冬季

3)調査箇所

対象事業実施区域及びその周囲約250mの範囲の水域及び窪川から吉田川合流点までの範囲の水域の6箇所



環境影響調査実施例



水生生物調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(9)植物

1)調査項目

植物相の状況(シダ植物、種子植物、植生の状況、重要な植物種及び植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

2)調査時期

植物相の状況: 4回 春・初夏・夏・秋季

植生の状況: 1回 夏季

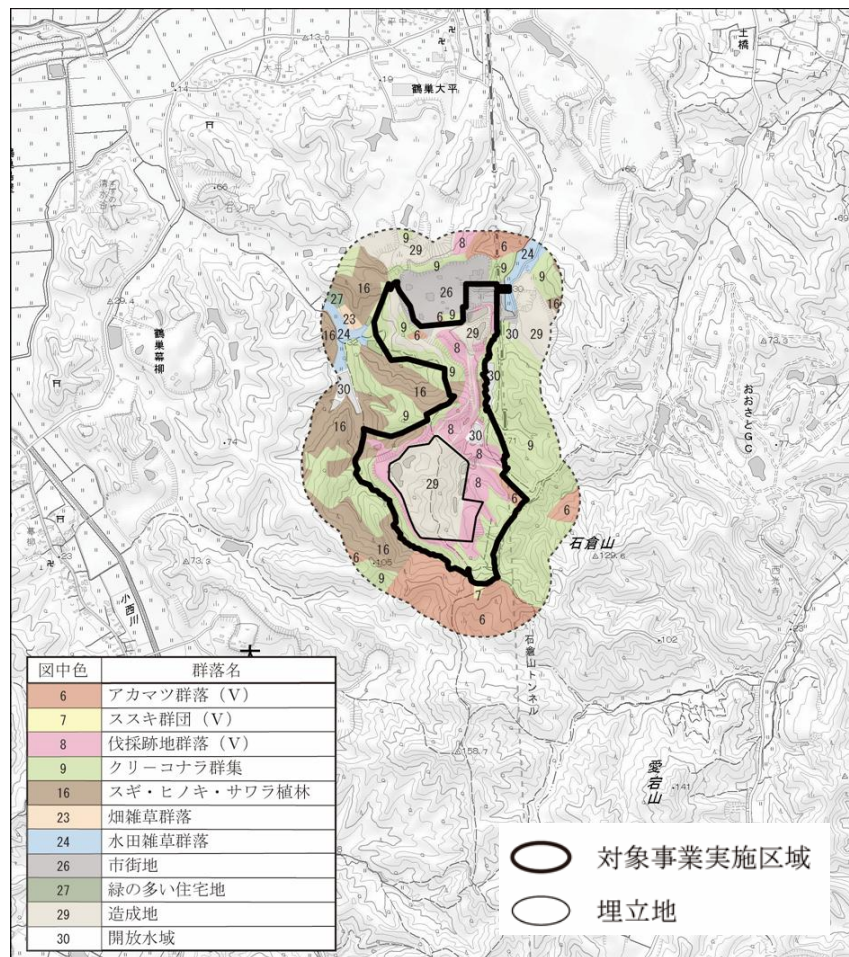
重要な植物種及び植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況: 植物相の状況及び植生の状況の調査期間に準じる

3)調査箇所

対象事業実施区域及びその周囲約250mの範囲



環境影響調査実施例



植物調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(10)生態系

1) 調査項目

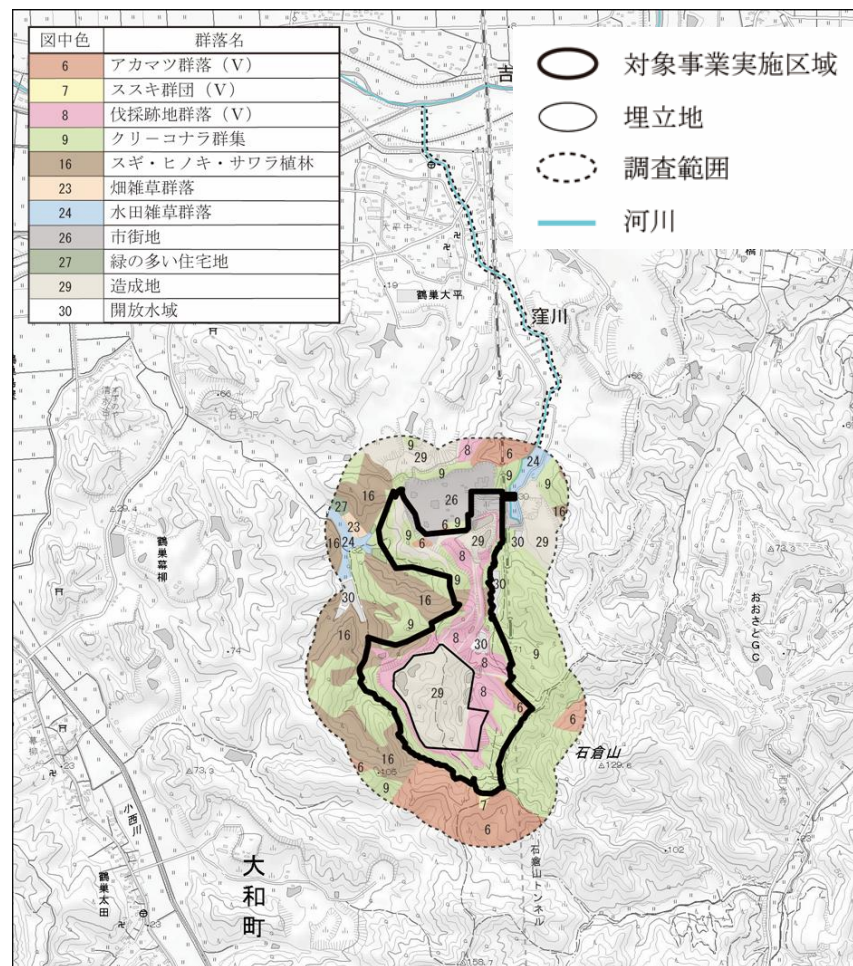
動植物その他の自然環境に係る状況
複数の注目種・群集に着目した生態系の状況

2) 調査時期

動植物調査の時期に準じる
但し、草地性鳥類(ホオジロ等)を対象とした、餌資源調査は夏季1回

3) 調査箇所

動植物調査の範囲に準じる



生態系調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(11) 景観

1) 調査項目

主要な眺望景観の状況、主要な圍繞
景観の状況

2) 調査時期

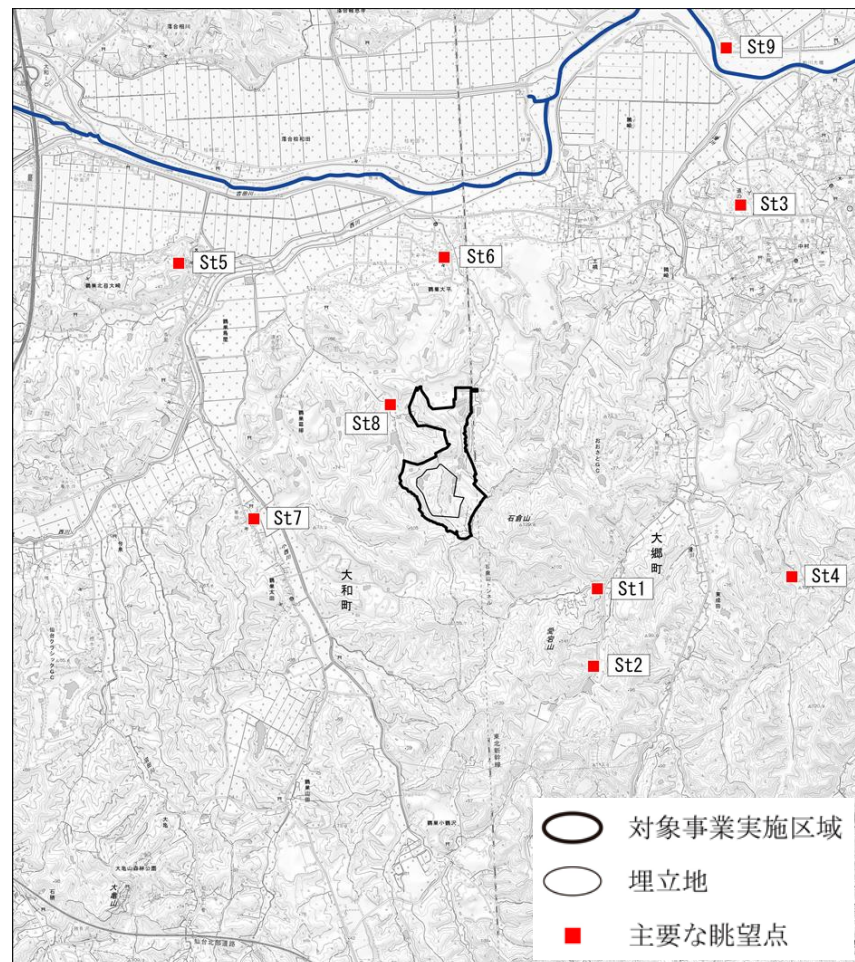
落葉期、展葉期の2回

3) 調査箇所

主要な眺望点の9箇所



環境影響調査実施例



景観調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(12)人と自然とのふれあい活動の場

1) 調査項目

人と自然とのふれあい活動の場の状況、
主要な人と自然との触れ合いの活動の場
の分布、利用の状況及び利用環境の状況、
求められる静穏性

2) 調査時期

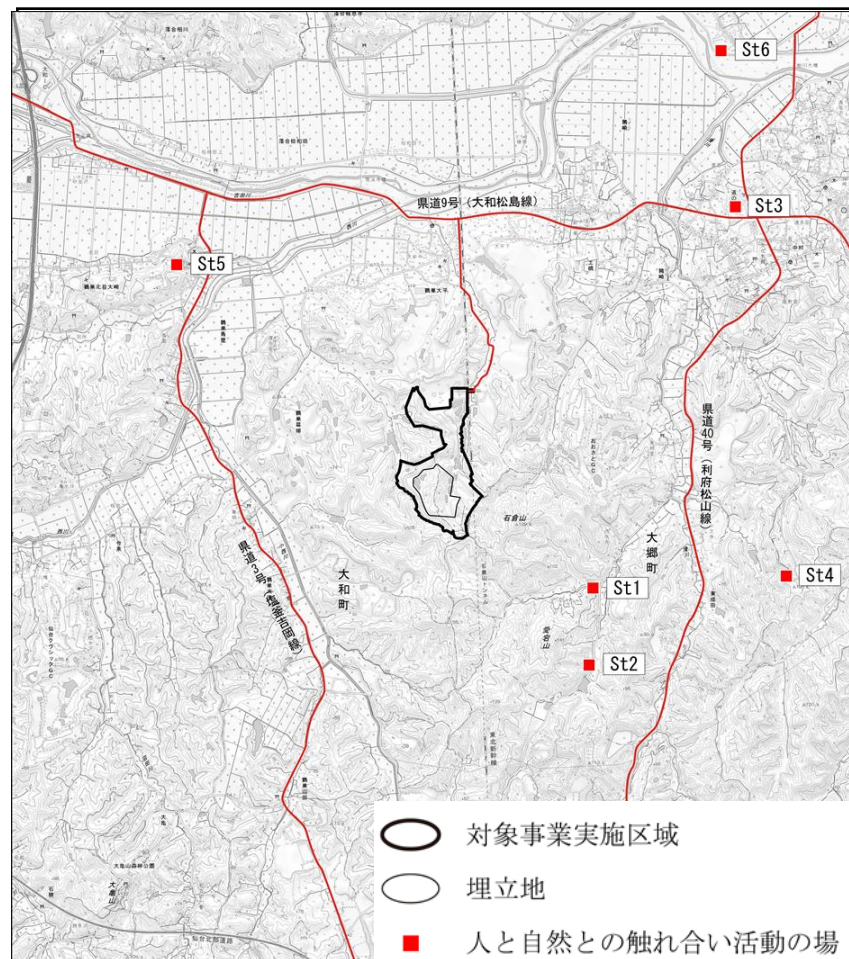
4回 春・夏・秋・冬

3) 調査箇所

6箇所



環境影響調査実施例



人と自然とのふれあい活動の場
調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(13) 廃棄物等

- ・造成・建築工事に伴う副産物である廃棄物を対象としていますが、工事計画等の資料により把握するため現地調査は実施しません。

(14) 温室効果ガス等

- ・建設機械の稼働や運搬車両の運行に伴い発生する二酸化炭素などを対象としていますが、工事計画等の資料により把握するため現地調査は実施しません。

6. 環境調査の内容

(15)-1 放射線の量(粉じん等の発生に伴うもの)

1) 調査項目

放射線の量の状況、粉じんの状況

2) 調査時期

放射線の量の状況: 任意の時期に1回

粉じん等: 4回 春・夏・秋・冬季

3) 調査箇所

6箇所

※大気質調査と併せて実施



放射線(粉じん等)調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(15)-2 放射線の量(水の濁りの発生に伴うもの)

1) 調査項目

水質の状況、底質の状況、流れの状況、土壌の状況

2) 調査時期

水質の状況、流れの状況: 降雨時に1回

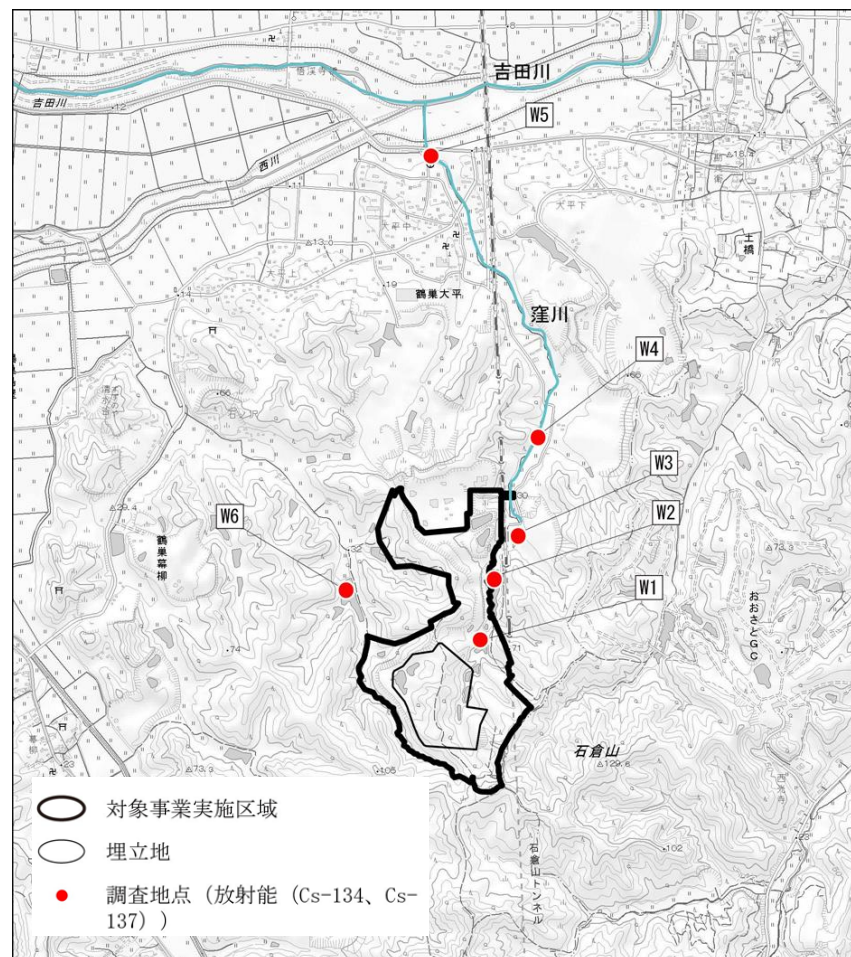
底質の状況: 降雨後に1回

土壌の状況: 任意の時期に1回

3) 調査箇所

6箇所

※水質調査と併せて実施



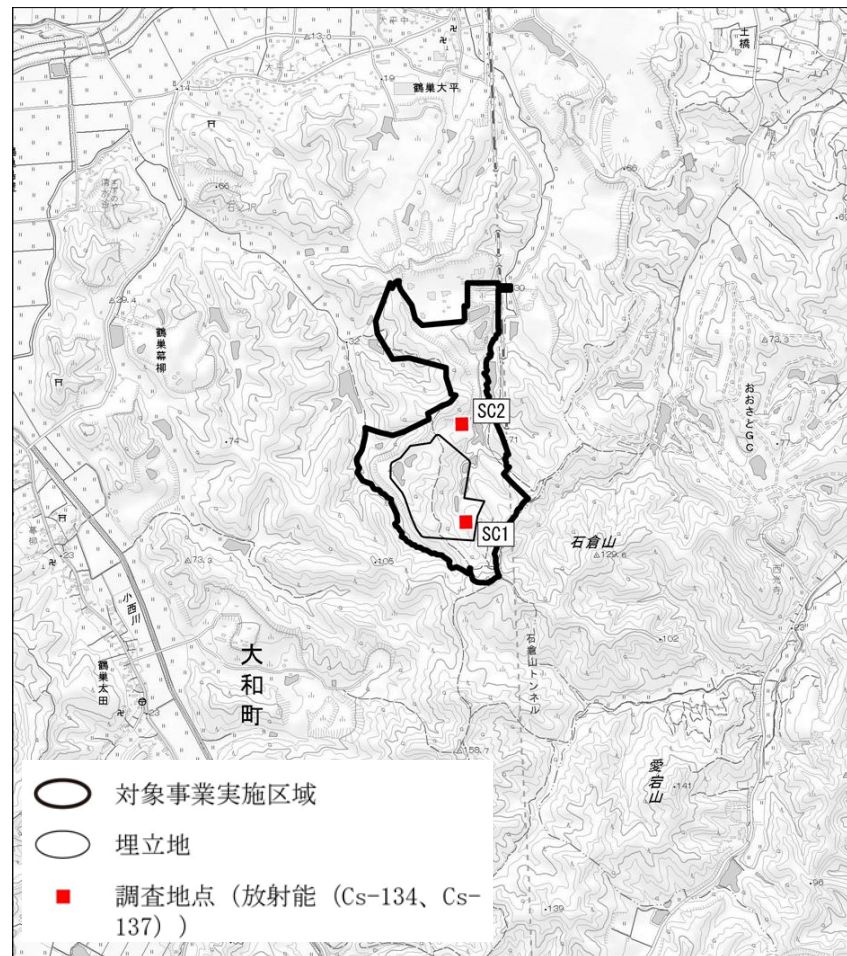
放射線(水の濁り)調査地点位置図

6. 環境調査の内容

(15)-3 放射線の量(建設工事に伴う副産物に係るもの)

- 1) 調査項目
土壌の状況
- 2) 調査時期
放射線の量の状況: 任意の時期に1回
- 3) 調査箇所
2箇所

※土壌汚染調査と併せて実施



放射線(副産物)調査地点位置図